

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団 旭豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ライラック(東ユニット)		
所在地	旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果市町村受理日	平成29年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療法人が母体となるグループホームの為、24時間安心して医療が受けられる体制を取れている。また、主治医による訪問診療を定期的に受けられるようになっており、必要に応じて病院での検査も受けられるよう対応している。法人と地域とともに行う盆踊りなどを通じて地域の方と触れ合える機会も設けている。中庭にサクランボの木や畑、花壇があり、春から秋を通して入居者の憩いの場となっている。ドライブ外出や、敬老会、高齢者文化祭への参加など入居者の皆さんが一年を通じて楽しんで頂けるよう取り組んでいる。

環状1号線と国道39号線に程近く、交通の利便性に優れた住宅街に開設13年目を迎える鉄筋コンクリート造り平屋建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。一人ひとりのその日の希望に沿って、中庭の畑での畑仕事や花植え、散歩や買い物など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、美瑛の四季彩の丘や空港へのドライブ、銀座商店街の七夕祭りや永山神社祭見物など、普段は行けないような場所でも本人の希望を把握し、出かけられるように支援している。楽しみことや気分転換への支援では、保育園児との交流やフラダンス、演芸ボランティアの協力を得たり、蕎麦打ちや餅つき、クリスマス会や敬老会等を開催するなどしていると共に職員の離職は殆んど無く、勤続年数も永く、安定したケアサービスをチームで提供している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や方針を書き職員室に掲示し、ネームの裏にも入れ、いつでもかえりみれるようにしている。また、日頃から入居者主体の考え方が備わる様な会話になるよう気を付けている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、定例会議やカンファレンス等で話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長にご相談し、ホームの夏祭りの参加をお願いしたり、古紙回収に参加している。ご近所の方とも顔見知りになっており、散歩の際などは挨拶を交わしている。	地域の人々に参加を呼び掛けた「ライラック祭り」の開催や町内会行事（古紙回収、清掃事業）への参加、地域のお祭り等の参加を通じて、地元の人々との交流に努めている。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括や地域の方とともに認知症カフェのお手伝いをしたり、認知症サポーターの研修への協力を行うことで、少しずつ協力できるよう努めている		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防訓練は毎回会議に充てており、取り組みを見てもらい、頂いたアドバイスを活かし、ミーティングの時などに職員間で話し合うなど行っている	運営推進会議では、事故防止への取り組みや日常生活の様子、事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告を行うくらいで、協力関係を築くまではできていないが、包括主催の地域密着型施設の打ち合わせ会には参加している。	市担当者との連携の重要性を認識して、日常業務を通じた相談や助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で設けている抑制防止委員会に参加し、その内容を職員に周知できるよう回覧で回したり、会議の際に報告している。	法人内研修の参加や抑制防止委員会が中心となって、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外の虐待についての研修に参加し、その内容を会議の場などで報告し話し合いの場を設けることで職員の意識向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで制度の習得をし、理解を深める様にしている。必要性を感じる方にはご家族にこのような制度があり、相談できる場所についてなど情報の提供は行っているが、利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時などに重要事項説明書、利用規定を確認し合いながら説明し、不明点などを聞き返している。また、不明点があった場合いつでも連絡もらえるよう、連絡先の確認も行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口の説明と、外部の相談機関のポスターを館内に掲示している。また、面会の時などに積極的に会話をし、要望などを聞きだせるようにしている	来訪時や電話連絡時に、意見や要望等を言い表せる機会を設け、そこでの意見を運営に反映させている。また、毎月たよりを発行して、日常生活の様子や健康状態等を情報提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろの申し送りや月に一度のミーティングの際に意見を出してもらったり、管理者とスタッフの個人面談を行うときに意見を聞き取り、日頃の取り組みに反映できるようにしている。	連絡ノートを活用やミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、就業環境の整備に努め、職員の離職は殆んど無く、安定したサービスを提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作る際に休み希望を聞くことや、有休がとれる安心感がある。また、それぞれのスタッフがもつ特技などを活かせる機会を作り、入居者の楽しみなどにつながることでやりがいを感じられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修や、その他の研修など回覧で回しお知らせし、参加してもらったり、ミーティングの際に勉強会を行い、色々な知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	包括主催の地域密着型サービスの打ち合わせ会に参加し情報交換や交流を行い、その内容をスタッフへも回覧などで伝達するようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の際に、ご本人、ご家族に見学に来ていただき、館内やサービスについての説明をする中で、どのような生活を望んでいるかや、不安な点などを聞き取り、ホームがどのような対応ができるかを伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に再度、サービスの説明やどのように生活してほしいと希望しているかなどを聞かせてもらい、こちらからどのような対応をしているかと思っているかなどを説明し、来訪の都度話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の話し合い、来訪時の会話などで支援の方向などを一緒に考える様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの入居者の得意なことや好きな活動を考慮し、洗濯物干し、たたみ、片付け、届いた食材の仕分け、下準備、などをスタッフと一緒にやっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月生活状況を伝えるお便りを写真入りで送り、生活の様子を見てもらえるようにしている。また、面会時にゆっくり過ごしてもらえるように配慮したり、スタッフからも日頃の様子を伝えたり、ケアについての相談をしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等との年賀状のやり取りを支援したり、来訪を受け入れている。また、入居者のご家族のお見舞いの支援も行っている。	散歩や買い物、地域の行事(お祭り、清掃事業等)参加、家族や知人等の来訪支援で馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や個性を把握し、食堂の席を決めたり、お互いにお手伝いや会話が生まれるような築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、退去後もいつでも相談に応じることを伝えるようにし、		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活習慣や意向、特性などを見ながら読書や塗り絵、学習、運動など思いおもいに過ごせるよう心掛けている	一人ひとりの意向や希望を把握して、科学館や空港見物、輪投げや塗り絵等のレクリエーション参加など本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族が来訪時に本人の生活環境や性格、趣味などを聞き、かかわった時に新たな発見なども出来るよう探っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの方の性格や出来ることなどを観察し、本人がどう過ごしたいかを見極めながら、本人のペースを保てるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの更新や作成時にミーティング時に行うカンファレンスでスタッフの意見を聞いたり、ご家族に要望を聞くことや、ご本人とも話したり生活の様子を見ることでどのようにくらしたいかを探り、取り入れるようにしている。	本人・家族の意向や要望、医師からの指導や助言、カンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと連動できるように、個人記録にプランを添付しいつでも振り替えられるようにし、ミーティングでも話し合い、プラン内容の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の外出の際にタクシーの手配や連絡を取っている。ご家族が遠方や高齢で買い物に行けない場合の買い物の代行を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事で科学館や美瑛の四季彩の丘まで出かけたり、銀座通り商店街の薬玉つくりをさせてもらうなど地域の催しに参加し、入居者の楽しみにつなげている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当病院の主治医による訪問診療を定期的に受けることで状況を把握してもらえ、日頃からも担当看護師を通じて連携が取れている。他科受診が必要になった際も、スムーズに情報を伝える準備ができています。	母体医療法人との連携や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	時間を問わずに担当看護師に相談することができるようになっており、入居者に対しての適切な指示が仰げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師を通し医療機関との情報交換を行い、早期の退院に向けて備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族来訪時やお便りで現況や、今後予想される状態を伝え、本人やご家族の希望を聞き、必要な支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの設置、ノロウィルスの対応訓練、急変時の対応の勉強会も行い、実践できるよう努めている。緊急時は病院に指示を仰ぎ対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、結果の反省点を話し合い改善している。入居者や地域の方も参加していただいている。	感染症対策や緊急時の対応訓練の実施や地域の人々の協力を得ながら、年2回の昼夜を想定した火災避難訓練を実施している。	今後は、自然災害(水害、地震、停電)に対応した準備を課題として検討しているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛け時は周りの人に聞こえないよう、本人のみに伝わるように声掛けしたり、威圧的な言葉遣いにならないよう注意している。	職員のスキルは高く、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	すぐに思いを伝えられない方は長めに間を取り、個々が分かりやすいように言葉をかけ、選べるように選択肢を示し、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日課で決まっている事は全員に声掛けするが、ご本人の気が乗らないときなど、ご本人の希望にそよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を決める際に本人に選んでいただいたり、相談して決めたりしている。目的に合ったアドバイスなども行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や他の食材に触れて頂きながら食事への興味を持ってもらえるよう、お手伝いなどを行って貰っている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に盛付けや調理、食事等の準備をしている。また、中庭の菜園での野菜や果物の収穫、おやつ作りなど食事が楽しみなものになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や検査の結果を考慮し食事量や味を検討したり、カリウム値の低い方にはバナナを補食するなど対応している。また、水分摂取量を1日1200ccを目途にとれるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促し、ご本人に合わせた介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の声掛けの際はブライドを傷つけないよう配慮している。また、おむつ使用だった方がトイレでの排泄を望まれたときは体力の回復を見ながらトイレでの排泄に移行できるようプランを立てて行ってきた。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、本人のブライドを傷つけないように配慮しながら声掛け、誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの方の排便周期や便の形状などを把握し、薬だけではなく、運動に腹部を活性化するものを取り入れたり、飲み物などで工夫するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	定期的な入浴以外にも、足浴を行ったり、希望があった時には入れるよう準備している。	足浴への取り組みや一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週2～3回を目安に柔軟に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、入所のタイミングを見てお部屋へ促したり、日中の臥床が長くないよう声かけするなど心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	温度版に薬の説明書とどし、いつでも確認できるようにしている。誤薬をしないようにセッティング時、内服前もスタッフ二人で確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを活かし、雑巾縫いや拭き掃除、食材の仕分け、洗濯物たたみなどを手伝って頂いている。誕生会や季節ごとの行事で気分転換も図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望も取り入れつつ、お花見ピクニック、旭山動物園見学、美瑛ドライブなど外出レクを企画実施している。暖かい日には近所の散歩も行っている。	中庭の畑での畑仕事や花植え、散歩や買い物など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、美瑛の四季彩の丘や空港へのドライブなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失トラブルを避けるため、ホーム内ではお預かりさせて頂いているが、希望時や外出時は本人好みのものを購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、かかってきた場合は静かな場所でゆっくりとお話して頂けるよう環境づくりをしている。手紙を送りたい方がいれば都度支援を行う。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の明るさや温度はこまめに調整を行い過ごしやすい環境づくりに努めている。また、季節の花をかざったり、イベントごとに壁面の飾りを製作し、季節感を取り入れている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾り付けなどで季節感や生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席やテーブルの配置は個々の性格や相性、関係性を考慮して行っている。廊下のソファでも一人でもくつろいで過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や使い慣れた物を置くことで居心地の良い空間づくりに努めている。	居室には、使い慣れた家具や寝具類等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下には手すりもある。トイレ、お風呂、食堂などは看板を作りわかりやすいようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団 旭豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ライラック(西ユニット)		
所在地	旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果市町村受理日	平成29年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901936-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療法人が母体となるグループホームの為、24時間安心して医療が受けられる体制をとれている。また、主治医による訪問診療を定期的に受けられるようになっており、必要に応じて病院での検査も受けられるよう対応している。法人と地域と共に行う盆踊りなどを通じて地域の方と触れ合える機会も設けている。中庭にさくらんぼの木や畑、花壇があり、春から秋を通して入居者の憩いの場となっている。ドライブ外出や、敬老会、高齢者文化祭への参加など入居者の皆さんが1年を通じて楽しんで頂けるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆さんがご自身のペースで毎日ゆったりと安心して過ごせるよう理念にあげ、それを心掛けた支援を行っている。リねんや方針を詰所に掲示しいつでも目に入る環境を作っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で町内会に入っており、運営推進会議や避難訓練の参加、回覧板でホームの行事案内をお願いしている。また高齢者文化祭への作品出展や七夕祭りのくす玉作りにも参加を続けている		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でグループホームでの行事や生活の事、感染対策、災害時の避難、認知症のこと、事故の対策などを掲示し理解していただけるようにしている		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も年間予定を立て、参加予定の方に次の会議の日程を早めにお知らせする等、定期開催できる様取り組めた。参加者の方から他施設での取り組みの話や、行事などへのアドバイスを聞かせて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ事故報告や、会議、研修や不明点の確認等している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束についての委員会があり、拘束のないケアの重要性や拘束に繋がっているケアは無いかな勉強会や不明点を確認している。転倒予防など他の方法がない場合には、家族に必要性や承諾を得てベッド柵などを使用している。定期的な見直しも行っている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料などをいつでも職員がみれるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加した職員を中心に、必要な方には活用できるように準備している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面接や入居契約時などに時間を充分にとり説明し、不明点を残さないようにしている。また入居後も不明点などがあればいつでも聞いてもらえるよう伝えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日頃の会話の中や、家族の来訪時の話の中で出る要望などを反映している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や申し送りを活用して意見を聞くようにし、取り組めるものから検討し行うようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に合わせた勤務形態の配慮したり、管理者からつたえる内容で把握してもらっている。法人主催の催しで楽しめたり研修でも知識を深める機会を持てている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の案内や研修の資料を職員全員がみれるよう回覧している。またミーティング時に勉強会を行い学習の機会をもうけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催の研修会へ参加したり、打ち合わせ会に施設の代表者が参加する等で交流を持っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に会える方は少ないので、ケースワーカーやご家族より情報を得よう努め、入居直後にもじっくりと話を聞くよう心掛けている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や見学の際に、話が出せる場を設けている。不安やわからない事があれば、いつでも連絡をもらえるよう伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談しあう中で、ニーズを把握し提供できるサービスを提案し進めるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや畑仕事等の日常生活を共に行うことで知恵を出していただいたり助けていただいている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に在宅中の様子を聞いたり、ホームでの様子を伝えるようにしている。家族の希望やホームでの現状を理解し合えるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた地域へのドライブや買い物など馴染みの場所や人と触れ合えるよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席等に配慮するとともに、利用者同士で楽しめる活動を考え、コミュニケーションが取れるよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の訪問も快く迎えている。また移った施設への情報提供を行い新しい場所でも安定した生活が出来るよう支援している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の希望や意向に沿えるよう個別の趣味活動や生活リズムを大切にしよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や入所後に家族から生活歴を教えてもらい把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の好みや能力などを把握し、活動内容や活動時間を考慮して対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフ同士で話し合いをして体調の留意点や生活上必要なポイントを取り入れ作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に取り組んだ結果等を記録などして、毎月のミーティングや普段から職員間で工夫したいことなどを話し合い継続したケアが出来るよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人病院と連携し、ニーズに合わせたサービスや往診、検査、リハビリが受けられるよう対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際にボランティアの方を招いて余興をしてもらったり、地域の七夕祭りや高齢者文化祭に作品を出品したり、展示物を見学に行き楽しませられている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人病院と連携をとり隔週で往診を受けている、担当看護師も毎日利用者の体調を確認し、急変時にもスムーズに対応できている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で担当看護師が日々の状態観察や健康管理をおこなってくれたり、体調の変化を報告、相談する事で、主治医との連携が図れ迅速な対応ができている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師と連携して、ご家族や入院機関と情報交換、話し合いを行い、退院後の体制について検討するなど適切に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族に24時間体制で病院と連絡を取れることを入所時に説明している。また重症化した時にもご本人やご家族へ看護師や医師から十分な説明、話し合いを行い、医療との連携を行いながら対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿い、状況に応じて対応できる様勉強会を行っている。急変時は担当看護師や病院と連携をとり指示を仰ぎ対応している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練があり、地域の民生委員や包括の方にも参加してもらい、実際に利用者と共に避難動作を行っている。またミーティングで反省点や改善点などを話し合っている		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境を踏まえてプライバシーに関しては居室にて対応したり声掛けにも工夫している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の心情をできる限り理解し会話しやすい環境作りを心かけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個人の生活ペースに合わせて、体調や気持ちを考慮したうえで活動や休憩が出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1/月の訪問理容のサービスを利用して定期的に散髪してもらっている。季節の変化に応じて衣類の入れ替えを行い、好みの服を選んだり着たり出来るよう支援している。爪の手入れや、耳掃除を入浴後等にチェックしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けやバランスを考え食事が楽しみになるよう心掛けている。もやしのひげ取りや食器拭きなども手伝って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量はチェック表に記入して、把握できる様努めている。一人一人の状態に合わせた食形態や食器等の工夫で摂取量を維持できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けにて介助が必要な方には、その都度対応している、定期的に義歯洗浄剤にて洗浄している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をつけることにより、排泄パターンの把握、尿意やサインを見逃し防止に努め、排泄失敗時にも羞恥心や自尊心に配慮を心がけている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し起き掛けに冷水や牛乳を摂取することで、出来るだけ自然な排便を心掛けているが、状況に応じて便秘薬内服で排便を促している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	個人の体調や状況また気持ちなど考慮の上、都度時間、曜日などを変更して対応するようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、不眠時等は話を傾聴し不安を取り除けるよう心掛けている。日中も自室で休むのに不安がある人には詰所の近くの長椅子等で休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たに処方になった薬は、効果等を調べるよう心掛けている。服薬時には1人で行わず他職員と名前や日付を確認後に服薬して頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭でしていたような、茶碗拭きやお膳拭き、おかずの盛り付け等の簡単な調理の手伝いや、お供え餅や年越しそば作りなど季節を感じてもらえるような催しなどにも取り組んでいる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調などを考慮し、外気浴、買い物、ドライブなどできるだけ出掛けられるよう心掛けている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はホームで行なっているが、外出時は自分の好きなものを選ぶ楽しみや、お金を支払う機会を持てるように努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望や意向に添いながらできない部分を補助する形で、相手と会話できたり連絡がとれるよう支援を行なっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、食堂の壁などを利用し季節を感じられるよう利用者と一緒に作成した展示物や行事で写した写真などを掲示している。各居室、トイレ浴室には札を貼り利用者が迷わずわかりやすいようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のイスや中庭のベンチなど利用者様のくつろげる環境作りに心掛けている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の意向を考慮し、使い慣れた物を置いたり生活しやすい空間づくりをして利用者が安心して過ごせるよう心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどは完備され安全に配慮された構造になっているが、利用者の状況に応じた対応や介助を行うように心がけている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ライラック
作成日： 平成 29年 3月 31日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	35	消防訓練は年に2回行っているが、水害、地震、停電などの災害についての訓練や対応については準備ができていないので、今後の課題として取り組みたい	色々な災害時に対応ができる様に準備を整える	・災害発生時の法人との連携について手順を確認し、表を作る。 ・火災以外の災害時マニュアルを作成する。 ・災害時の必要物品を検討し常備できるようにする。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。